2024年度
事業計画

2024年4月　1日から
2025年3月31日まで

公益財団法人　日本水泳連盟

2024年3月作成

目　　次

所信 …… 2
国際競技大会参加予定一覧 …… 4
事業の方針
Ⅰ　競技力向上事業（選手派遣事業）…… 5
1. JOC 派遣事業
2. 本連盟派遣事業（主要大会）
Ⅱ　競技力向上事業（選手強化事業）
1. 競泳強化事業
2. 飛込強化事業
3. 水球強化事業
4. アーティスティックスイミング強化事業
5. オープンウォータースイミング強化事業
Ⅲ　競技運営推進事業（競技大会開催事業）…… 11
1. 国内競技会開催事業
2. 国際競技会の開催事業
3. 競技委員会事業
Ⅳ　競技運営推進事業（競技推進支援事業）…… 13
1. 科学事業
2. 医事事業
3. アンチ・ドーピング事業
4.国際関係事業
Ⅴ　競技運営推進事業（競技条件整備事業）…… 16
1. 競技者登録事業
2. 競技規則制定事業
3. 競技役員養成・登録事業
4. 競技記録公認・管理事業
5. 施設用具公認推薦事業
Ⅵ　普及事業 …… 17
1. 指導者養成事業
(1) 地域指導者養成事業
(2) 競技力向上コーチ養成事業
(3) 水泳教師養成事業
2. 生涯スポーツ・環境事業
3. オープンウォータースイミング普及事業
4. 日本泳法保存事業
5. 機関誌発行事業
6. 広報事業
7. アスリート委員会事業
8. 国際貢献事業
Ⅶ　組織運営のための共通事業 …… 22
1. 総務関係事業
2. マーケティング事業
3. 特別委員会事業
Ⅷ　組織運営および財政基盤の確立

所　信

2023年度は、皆さまのご協力により、22年ぶりの母国開催となった世界選手権大会（福岡）が無事開催されました。世界中から参加され、高いパフォーマンスを発揮された、選手、チーム関係者、国内外のメディアの皆さまの勤勉さと心のこもったご尽力に改めて深く感謝申し上げます。今大会は、結果として、多くの参加選手と観客が集まり、高い水準の大会運営スキルと成熟した国民性を国内外に証明することになりました。今回の大会の成功が、日本の水泳レベル向上と水泳競技の裾野の拡大につながるとともに、選手や水泳ファンを超えて、より多くの人々が、水泳を通じて明るく健康的な未来へ向けた行動をさらに広めていただければ嬉しく思います。ご支援ご協力をいただいた協賛・スポンサー各社、加盟団体、関係団体の皆さまに対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

2024年度は、本連盟創立100周年を迎え、「水泳ニッポン・中期計画2017‐2024」の集大成の年となります。猛威を振るった新型コロナウイルス感染症による情勢悪化の影響を受けて以降、計画のすべてを遂行することが困難になりましたが、2024年度の事業計画につきましては、この状況をプラスに捉え、変化・改革を意識して業務効率化も含め実施してまいります。また、新時代を迎えるために取り組むべき活動と目標を整理し、「水泳ニッポン・新時代構想」を策定し、ビジョンを掲げることで水泳ファミリーと「水泳の目指すべき未来」を共有し、日本の水泳界のあるべき姿を達成していきたいと考えます。

選手派遣・選手強化事業では、パリオリンピックを最重点大会と位置づけ、金メダルを含む複数のメダル獲得を目指します。加えて主要な国際大会に参加しての実戦強化、いわゆる「競技会強化」を含め、競技力向上に取り組みます。また、次世代の選手強化にも積極的に取り組み、より高いレベルで戦える選手の早期育成、選手層の拡充を図ります。

競技大会開催事業では、世界選手権大会（福岡）において証明した国際基準の質の高い大会運営を継続していくとともに、国内競技会において主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実現します。

指導者養成事業では、指導者養成3委員会による協議・協働を継続し、スポーツ文化の創造およびスポーツの社会的価値向上に貢献できる指導者の養成、ならびに減少傾向にある指導者資格保有者数の維持・増加に取り組みます。また、加速する学校体育における水泳授業の民間委託や学校部活動の地域連携および地域スポーツクラブ活動への移行に関連した施策も講じます。

生涯スポーツ・環境事業では、老若男女を問わず「泳力検定（飛込検定・ASバッジテスト・OWS検定含む）」および「水泳の日」、「スイムスマイルプロジェクト」等を通じて、水泳の楽しさを伝えるとともに、青少年の健全な成長支援と高齢化社会におけるウェルネススポーツとしてのイニシアティブ獲得を目指します。また、「命を守ることができるスポーツ」水泳の教育環境を継続して整備し、国民皆泳や水難事故防止啓発活動の全国展開を図ってまいります。

総務関係事業では、「水泳ニッポン・中期計画2017 - 2024」の進捗管理を行うとともに、「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」に適応した組織運営を継続し、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性）の向上に取り組みます。また、これまで同様、自主財源の確立およびマーケティング活動についても注力します。

広報事業では、水泳競技への注目度を一層高めるとともに、水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを意識した各種情報発信に努め、水泳ファミリーの拡大を目指します。

競技条件整備事業では、競技者登録管理システム「WebSWMSYS」、競技会記録速報ツール「超速」の安定運用および機能拡充を推進します。

これら組織基盤の強化を図りつつ、世界水泳連盟（AQUA）、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会（JSPO）、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）などの関係機関・団体とも連携強化・協働を図ります。また、水と共生できる社会の実現を目指して、世界共通の大切な資源である水を利用するスポーツのチカラで、持続可能な社会実現の水先を先導していき、水泳競技の永続的な発展と競技団体としての価値向上を目指します。

結びになりますが、創立100周年を迎え、新たなステージへの挑戦と日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。皆さまのなお一層のご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2024年3月16日

会長　鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧　　（注）◎印は主要競技大会

種目	競　技　会	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
競泳	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	世界選手権大会（25m）	○		○	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会			○	
	世界ジュニア選手権大会		○		○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
飛込	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	アジア選手権大会	○			
	ユースオリンピック大会			○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
水球	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	アジア選手権大会	○			
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会（U20）		○		○
	世界ユース選手権大会（U18）	○		○	
	世界カデット選手権大会（U16）			○	
	アジアエージ選手権大会（U17）		○		○
アーティスティック（AS）	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	世界ユース選手権大会		○		○
	アジアエージ選手権大会		○		○
オープンウォーター（OWS）	オリンピック大会	◎			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	パンパシフィック選手権大会			◎	
	アジア選手権大会				
	AQUAオープンウォーターワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	

事業の方針

Ⅰ　競技力向上事業（選手派遣事業）

選手派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金などの公的資金を活用することから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。最大の目標であるパリオリンピックをはじめ、ロサンゼルスオリンピック、次世代強化に向けた競技力向上のため、各派遣の目標達成に向けた計画や準備など、派遣事業がより効果的に実施されるよう取り組む。そして情報開示をきちんと実施し長期的な強化のプランを共有して日本全体として強くあり続けることを目指したい。

１．　JOC 派遣事業

（１）第33回オリンピック競技大会

① 期間・場所　　7月26日～ 8月11日　　フランス・パリ

② 競技種目・日程

(a)	競泳	7月27日～ 8月 4日
(b)	飛込	7月27日～ 8月10日
(c)	水球	7月27日～ 8月11日
(d)	AS	8月 5日～ 8月10日
(e)	OWS	8月 8日・ 8月 9日

２．本連盟派遣事業（主要大会）

（１）アジア選手権

① 期間・場所　　未定

② 競技種目・日程　　未定

Ⅱ　競技力向上事業（選手強化事業）

2024年度は、通常の4年周期より1年短くパリオリンピックを迎えることとなる。月1回の特別強化本部会議を通じて5部門の進捗状況を常に確認するとともに、国際情勢の把握、新ルールへの適応も着実に行い効果的な選手強化事業を実施していく。選手強化事業としての最大の目標はパリオリンピックでの選手の活躍であるが、2028年ロサンゼルスオリンピックを見据えたキックオフの年でもあり、ジュニア世代の強化も確実に行うため、長期強化プランに基軸をおいて効果的な施策を実施していく。

１．競泳強化事業

2023年度上期は、世界選手権大会（福岡）・アジア大会・ワールドユニバーシティゲームズ・世界ジュニア選手権大会と4つの国際大会が行われるという過密スケジュールの事業展開であった。

世界選手権大会（福岡）は銅メダル2個を獲得したが金メダルを含め、もう少し多くのメダルを獲得したかった。アジア大会は金メダル5個・銀メダル10個・銅メダル15個を獲得したが、中国の圧倒的な強さを目の当たりにし、韓国も金メダル獲得数は日本より1つ多かった。ワールドユニバーシティゲームズは金メダル4個・銀メダル8個・銅メダル5個を獲得、世界ジュニア選手権大会は13名という少数の派遣であったが、金メダル4個・銀メダル8個・銅メダル5個を獲得した。

上期の4つの派遣について、競技力の向上を今後さらに発展させていかなければならないなかで、世界選手権大会（福岡）・アジア大会でトップ選手、ワールドユニバーシティゲームズで大学生を中心にした次世代トップ候補選手、世界ジュニア選手権大会で18才以下のジュニアトップ選手にそれぞれ国際大会を経験させられたことは、来年のパリオリンピック、中期的にはロサンゼルスオリンピックを見据えた事業であったと言える。

下期については世界選手権大会（ドーハ）が行われる。競泳は世界選手権大会（福岡）で多くの選手に国際経験を積ませるために、世界選手権大会過去最大の40名の選手団を編成した。このためリレーのオリンピック出場代表権もこの大会の記録を持って獲得する方針と定めていた。世界選手権大会（ドーハ）はパリオリンピックの選考会でもある国際大会代表選手選考会を1ヶ月後に控えていることからも、競技会強化の意味合いで少数の選手団派遣とした。

また、12月から2月に延期となっているアジアエージグループ選手権大会は、ロサンゼルスオリンピック・ブリスベンオリンピックを見据えた中学生以下の選手団を編成した。

2024年は、パリオリンピックが開催される。金メダルを含む複数メダルの獲得・全員決勝進出を目指し戦うチームを編成して目標を達成していく所存である。

（1） 国際競技会

①	ヨーロッパグランプリ	5月	ヨーロッパ
②	国際水泳60°セッテコリー	6月	イタリア・セッテコリー
③	パリオリンピック	7月	フランス・パリ
④	ジュニアパンパシフィック選手権大会	8月	オーストラリア・キャンベラ
⑤	ワールドカップ	未定	未定
⑥	世界選手権大会（25m）	12月	ハンガリー・ブダペスト
⑦	ジュニア選抜遠征	未定	未定

（2）強化トレーニング合宿

①	オリンピック国内高地合宿①	4月	東御
②	オリンピック海外高地合宿①	4月	アメリカ・フラッグスタッフ
③	ジュニアパンパシフィック選手権大会事前合宿①	4月	JISS
④	オリンピック二次合宿	5月	NTC-E
⑤	オリンピック国内高地合宿②	6月	東御
⑥	オリンピック海外高地合宿②	6月	スペイン・シエラネバダ
⑦	オリンピック海外合宿	6月	フランス・ナンテール
⑧	オリンピック直前合宿	7月	フランス・アミアン
⑨	ジュニアパンパシフィック選手権大会事前合宿②	7月	NTC-E
⑩	ジュニアパンパシフィック選手権大会直前合宿	8月	NTC-E
⑪	エリート小学生秋季合宿	9月	NTC-E
⑫	ワールドユニバーシティゲームズ候補合宿	10月	NTC-E
⑬	インターナショナル合宿①	11月	NTC-E
⑭	インターナショナル合宿②	12月	東御
⑮	世界選手権大会(25m)直前合宿	12月	NTC-E
⑯	ナショナル合宿	12月	富士
⑰	ジュニアナショナルチーム合宿	12月	鈴鹿
⑱	ジュニア全国11ブロック合宿	12月	全国各地
⑲	インターナショナル合宿③	2月	NTC-E
⑳	世界選手権大会（シンガポール）一次合宿	3月	NTC-E

㉑　五輪候補個別合宿(海外)	未定	各地

（3）コーチ派遣・招聘

①　LEN U23 European Championships 視察	未定	未定

（4）企画・研修および講習会

①　エリート小学生春季オンライン研修会	4月	オンライン
②　マスタープラン会議	9月	NTC-E
③　全国強化コーチ会議	9月	ハイブリッド
④　ナショナルオンライン研修会	10月	オンライン
⑤　インターナショナルオンライン研修会	10月	オンライン

２．飛込強化事業

2023年に開催された世界選手権大会（福岡）では8種目にエントリーし、9名の選手団を派遣した。結果、6種目で6名が入賞を果たし、3名がパリオリンピック代表内定を果たした。21年ぶりの銅メダル獲得を果たしたのはMIXシンクロ高飛込（伊藤洸輝選手・板橋美波選手）であった。しかし、個人種目やシンクロ種目においてメダル争いの中、あと一歩で届かない現状でもある。その原因としてはコロナ禍において国際競技会が開催されず、緊張下での高い経験値を得ることができなかったことが挙げられる。そこでパリオリンピックを見据えて、いかにメダル獲得を実現するかが課題となっている。そのために昨年度に引き続き「国際競技会強化」、「重点強化」、「拠点強化」の3視点で強化事業を継続し展開していく。

2023年度より始まったAQUAのワールドカップ3戦は年度をまたいでカナダ・ドイツ・中国で開催されている。この競技会は、世界選手権大会などの実績をもとにランキング制が実施され、高いレベルの選手が集まる大会である。個人4種目・シンクロ2種目を中心に選手団を派遣して国際競技力向上に努めたい。特に女子飛板飛込ならびに女子高飛込、そして男子高飛込では上位入賞を目標とする。さらにシンクロ種目でも女子シンクロ高飛込を中心に期待度は高く、パリオリンピックの基軸となるチームである。

一方、ジュニア選手の台頭が課題となっている。ジュニアナショナルチームは徐々にではあるが選手層に厚みが増してきている。世界ジュニア選手権大会での上位入賞を目標とする。これにより技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を図りたい。

国際大会派遣に加え、強化事業の柱としてメダルポテンシャルアスリート（MPA）を策定している。この事業は日本飛込界全体で応援する体制作りを基盤に長期的な重点強化を推進し、男子高飛込の玉井陸斗選手（JSS宝塚／須磨学園2年）、そして女子3m飛板飛込の三上紗也可選手（日本体育大学4年）を継続して支援する。

また、所属強化を含め、継続した国内合宿を滞りなく実施するため、競技別強化拠点の整備が必要不可欠である。引き続き、行政の協力を仰ぎ、石川県や三重県、静岡県の公共プール施設・飛込競技に特化した室内練習施設を完備した栃木県の「日環アリーナ栃木」を国内強化の重要拠点として利活用させていただく。トップレベルの選手から初心者まで、この地でさらに効果的な強化普及活動が展開できると考える。

（1）国際競技会

①　パリオリンピック	7月26日～8月11日	フランス・パリ
②　AQUA　2024 ワールドカップ第3戦	4月15日～22日	中国・西安

③	AQUA アメリカンカップ	4月26日～28日	アメリカ・インディアナポリス
④	AQUA カナダカップ	5月 2日～ 5日	カナダ・カルガリー
⑤	フランス Open Diving	4月29日～5月1日	フランス・パリ
⑥	アジア選手権大会	未定	未定
⑦	世界ジュニア選手権大会	11月24日～12月1日	ブラジル・リオデジャネイロ
⑧	AQUA Malaysia Open Diving	11月1日～ 4日	マレーシア・クアラルンプール
⑨	AQUA 2025ワールドカップ第1戦	2月29日～ 3月3日	カナダ・モントリオール
⑩	AQUA 2025ワールドカップ第2戦	3月21日～24日	ドイツ・ベルリン

（2）強化トレーニング合宿

① 強化国内合宿

(a)	第1回 パリオリンピック強化合宿	5月	栃木・宇都宮
	第2回 パリオリンピック強化合宿	6月	栃木・宇都宮
	第3回 パリオリンピック強化合宿	7月	栃木・宇都宮
(b)	国内強化合宿（3回）	12月～3月	栃木・宇都宮

② ジュニア合宿

(a)	世界ジュニア選手権合宿	未定	栃木・宇都宮
(b)	ジュニア強化合宿（２回）	未定	栃木・宇都宮

（3）企画・研修会および講習会

①	強化コーチ会議	10月他	多数回
②	ブロック代表者会議	12月	
③	公認審判員研修会		
(a)	A・B級公認審判員中央研修会	5月～7月	数回
(b)	C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時
(c)	巡回教室	未定	
(d)	指導者育成研修	未定	

３．水球強化事業

2023年は、アジア大会での優勝を最優先として取り組んだ。男子は53年ぶりの金メダルを獲得し、女子は、ライバルであるカザフスタンを退けたものの、中国に次いでの銀メダルとなった。この結果、アジア大会におけるパリオリンピック出場権を男子は獲得し、女子は逃す結果となった。2024年は、男子はパリオリンピックで悲願の決勝トーメナント進出を目指す。また、アジア選手権での男女優勝を目指す。戦術面では、日本のスピードを活かしたディフェンス戦術のブラッシュアップに加え、他国の対応策に応じたバリエーションを増やしていく。年代別国際大会は、世界選手権大会 U16、U18がそれぞれ開催される予定であり、男女とも U18（2006年生）世代を重視して強化する。ただし、女子については一部2008年生世代選手を選抜し、一体化した強化を図る。現在17歳であるこの世代は、ロスオリンピック時に22歳、ブリスベンオリンピック時に26歳となり、選手としての適齢期を迎える事から、特に注力するものである。また、この世代については、代表への早期選抜についても、経験を積ませる、ベテランの活性化等、チーム力向上に資する事も多く、機を見て検討していく。東京オリンピック以降、強化を含めて長期かつ全般的な戦略立案に着手しているが、大きな課題（①スタッフの処遇面確保、②収入拡大や広報戦略に向けた戦略実行の体制強化、③競技別強化拠点の確保、④強化に資する国内競技会の検討と見直し、⑤アクアゲームを活用した水球ファン層の

拡大等）の実行に取り掛かれていない。選手ならびに水球に係わる関係者と一丸となって、改革に協力して取り組めるよう、話し合いを繰り返し、課題に取り組んでいく。

（1）チーム派遣

①	パリオリンピック（男子）	7 月 27 日～8 月 11 日	フランス・パリ
②	アジア選手権	未定	カザフスタン
③	ワールドカップ Division（男子）	未定	未定
④	ワールドカップ Intercontinental（女子）	未定	未定
⑤	世界ユース（U18）選手権（男子）	7 月 2 日～7 月 8 日	アルゼンチン

（2）強化トレーニング合宿

①	パリ五輪前国外欧州合宿（男子）	7 月予定	フランス他
②	国内通い合宿（女子）	関東学生リーグ開催期	首都圏
③	第 1 次～第 5 次国内強化合宿（男子）	各月 1 週間程	未定
④	第 1 次～第 4 次国内強化合宿（女子）	各月 1 週間程	未定
⑤	世界ユース（U18）事前合宿（男子）	6 月予定	未定

（3）企画・研修および講習会

①	U16・U17 研修合宿	12 月・3 月	倉敷・柏崎
②	国内視察	通年	IH/国スポ 他
③	科学情報収集	通年	JISS 他

４．アーティスティックスイミング強化事業

2023年度は、世界選手権大会（福岡）において、金メダル4個、銀メダル1個、銅メダル2個と過去最高の成績を収めることができた。AS ルールの大幅な変更に伴い戦術方略を鋭意研究し、ワールドカップを転戦した実践強化が実を結んだ結果となった。新ルールでは、高難易度の脚技の試技を認められることが絶対条件となり、得点も順位も予測がつかない競技へと変化した。

2024年度は、パリオリンピックでのメダル獲得が最大の目標となる。世界選手権大会では、計11個のメダルを争うが、オリンピックでは、デュエット（テクニカルルーティン・フリールーティンの合計）とチーム（テクニカルルーティン・フリールーティン・アクロバティックルーティンの合計）の2個のメダルのみとなるため、1つのミスも許されない精神的にも厳しい戦いとなる。まずは、5月にパリで開催される AQUA ワールドカップ（プレ五輪）に、オリンピック本番に向けてのシミュレーションも兼ねて事前合宿を行い大会に出場、パリオリンピックに向けての強化対策を選手団一丸となって課題に取り組む。

2028年・2032年に向けての次世代強化として、ジュニア代表を世界ジュニア選手権大会（8月、ペルー・リマ）に派遣し、表彰台を狙う。AQUA が重点強化のひとつとして掲げているミックスデュエットの普及と男子選手の拡充対策として、男子選手の育成、競技力向上を図る。ユース強化事業（11～14歳）は、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施し、有望選手からユースエリート強化選手を若干名選抜し、ユースエリート強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、2028年以降の中心戦力選手を着実に育てていく。さらに、ジャンパー育成プロジェクトによるアクロバテ

ィック強化を継続して行う。AQUA ルールの国内運用に伴い、テクニカルコントローラーおよび審判員の養成講習会と研修会、さらに競技運営研修会も継続的に行う。

（1） 国際競技会

①	AQUA ASWC 2024 パリ大会	5月	フランス・パリ
②	AQUA ASWC 2024 カナダ大会	5月	カナダ・マーカム
③	パリオリンピック	8月	フランス・パリ
④	世界ジュニア選手権大会	8月	ペルー・リマ
⑤	AQUA ASWC 2025	3月	未定

（2） 強化トレーニング合宿

①	パリオリンピック強化合宿	4～7月	JISS ほか
②	世界ジュニア選手権大会代表合宿	5～8月	JISS
③	世界選手権シンガポール大会代表合宿	11～3月	JISS
④	2028・2032五輪対策ｼﾞｬﾝﾊﾟｰ育成ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ合宿	10～2月	NTC
⑤	ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑥	ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS
⑦	男子ジュニア強化合宿	12月	JISS

（3） 企画･研修および講習会

①	代表派遣選手選考会	10～12月	HPSC
②	全国強化担当者会議	10～12月	JISS
③	コーチキャンプ	10～12月	HPSC
④	ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	秋	JISS
⑤	テクニカルコントローラー強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑥	テクニカルコントローラー研修会・派遣	年間	競技会開催地ほか
⑦	審判強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑧	審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか
⑨	競技者育成プログラムバッジテスト	年間	東京・大阪・加盟団体
⑩	男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪

5．オープンウォータースイミング強化事業

オープンウォータースイミングは「競泳1500m・800m 自由形のタイム×環境適応力」で評価できるため、両者を強化する必要がある。

2023年度は、世界選手権大会（福岡）において、ミックスリレーで初の７位入賞を果たすことができた。また、アジア大会では女子10km において銀メダルを獲得した。メダルや入賞を果たしている選手は競泳1500m・800m の競技レベルが高いことからも競泳の泳力向上と環境適応力両者を強化しなければいけないことは明らかである。一方で、世界選手権大会（福岡）は高水温が想定されたが、前日までの大雨により水温が想定より低かった。このように自然環境の変化も考慮した強化計画を組む必要がある。

2024年は、世界選手権大会（ドーハ）において、パリオリンピック出場権を獲得できるか否かによるが、競泳の泳力と OWS の環境適応力を高地トレーニングとワールドカップヨーロッパ遠征で強化し、パリオリンピック本番で実力を発揮できる準備を行う。パリオリンピックから競泳1500m・800m 自由形出場選手は OWS にも出場できることから、レースのスピード化

が進むことが想定され、時差調整も含め海外を拠点とし強化を行う。

ジュニアの強化育成については、現状のジュニアトップ選手が日本選手権においてメダルを獲得していることから、ロサンゼルスオリンピックに向けた強化を2024年度から開始する。

2024年は、世界ジュニア選手権でのメダル獲得を目標とし、同年代で世界においてトップクラスでいられるよう、国内を拠点とし、海とプールでの強化を行う。

なお、シニアとジュニアを合同でナショナルチームとして合宿したことで、当時のジュニア選手が現在、日本選手権にて上位入賞を果たし、世界選手権大会代表となっていることから、次世代育成事業としてナショナルチーム合宿がある一定の成果を上げていると考える。このことから、2024年度も引き続き、下半期を中心にジュニア・シニア合同の合宿を計画し強化を図る。

（1） 国際競技会

① ワールドカップ	5月	イタリア・ゴルフォアランチ、ポルトガル・セトゥバル
② パリオリンピック	8月	フランス・パリ
③ ワールドカップ	12月	イスラエル・エイラート
④ 全豪選手権	1月	オーストラリア・未定
⑤ 世界ジュニア選手権大会	9月	イタリア・ゴルフォアランチ

（2） 強化トレーニング合宿

① パリオリンピック第1次高地合宿	5月	イタリア・リビーニョ
② 世界ジュニア選手権向け1次合宿	6月	三重 など
③ パリオリンピック第2次高地合宿	7月	イタリア・リビーニョ
④ パリオリンピック直前調整合宿	7月	フランス・アミアン
⑤ 世界ジュニア選手権向け直前合宿	8月	JISS
⑥ ナショナルチーム合宿	12月	JISS

（3） 企画･研修および講習会

① 強化コーチ会議	毎月	オンライン

Ⅲ 競技運営推進事業（競技大会開催事業）

2024年度は、日本水泳連盟創立100周年を迎え、さらなる競技大会の充実に向けた節目の年としたい。選手が最高のパフォーマンスができる環境づくりを最優先に、関係者、競技役員が一丸となって取り組む。さらには、魅力ある競技会を行うことで、水泳ファンを拡大し、会場に来てくれる子供たちを含めた観客を増やす工夫をする。

また、第33回オリンピック競技大会が、フランス・パリで開催される。代表選手選考は、2023年度末の3月に終了しているため、これまでの主催競技会の実施時期を変更して開催する。競泳・飛込・水球・AS・OWS それぞれが総力を挙げて、すべての競技大会を計画に沿って実施する。

１．国内競技会開催事業

国内で行われる各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密に行い、企画、立案、運営、

予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを統括する。100周年を機に全国で統一された運営を一層推進して、選手が自己の持てる力を最大限発揮できる質の高い競技大会を実現する。代表選考とその後の選手強化を踏まえて、競泳日本選手権の時期を変更して年度末の3月に開催する。

（1）【競泳競技】

①	日本大学・中央大学対抗戦	6月29日	東京ｱｸｱﾃｨｸｽｾﾝﾀｰ(TAC)	東　京
②	早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	6月30日	TAC	東　京
③	全国国公立大学選手権大会	8月10・11日	草津市立プール	滋　賀
④	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	SAGA アクア	佐　賀
⑤	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	金沢プール	石　川
⑥	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～26日	TAC	東　京
⑦	日本学生選手権水泳競技大会	9月5日～8日	TAC	東　京
⑧	国民スポーツ大会	9月14日～16日	SAGA アクア	佐　賀
⑨	日本選手権水泳競技大会（25m）	10月19・20日	TAC	東　京
⑩	日本社会人選手権水泳競技大会	11月2・3日	郡山しんきん開成山プール	福　島
⑪	ジャパンオープン2024（50m）	11月29日～12月1日	TAC	東　京
⑫	日本選手権水泳競技大会	3月20日～23日	TAC	東　京
⑬	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月27日～30日	TAC	東　京

（2）【飛込競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	別府市営青山プール	大　分
②	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	金沢プール	石　川
③	全国 JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～25日	草津市立プール	滋　賀
④	日本選手権水泳競技大会	8月30日～9月1日	草津市立プール	滋　賀
⑤	日本学生選手権水泳競技大会	9月7・8日	TAC	東　京
⑥	国民スポーツ大会	9月14日～16日	SAGA アクア	佐　賀
⑦	翼ジャパンダイビングカップ	3月20日～23日	TAC	東　京
⑧	全国 JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月29・30日	日環アリーナ栃木	栃　木

（3）【水球競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	大分商業高校	大　分
②	全国 JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～26日	京都アクアリーナ	京　都
③	日本学生選手権水泳競技大会	8月28日～31日	TAC	東　京
④	国民スポーツ大会	9月 9日～12日	SAGA アクア	佐　賀
⑤	日本選手権最終予選会	9月21日～23日	静岡県立水泳場	静　岡
⑥	日本選手権水泳競技大会	10月12日～14日	県立柏崎アクアパーク	新　潟
⑦	全日本ユース（U16）選手権大会	12月24日～27日	倉敷・児島	岡　山
⑧	全日本ジュニア（U17）選手権大会	3月20日～23日	県立柏崎アクアパーク	新　潟
⑨	全国 JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月26日～30日	千葉県国際総合水泳場	千　葉

（4）【アーティスティックスイミング競技】

①	日本選手権水泳競技大会	5月 3日～5日	TAC	東　京
②	日本ｱｰﾃｨｽﾃｨｯｸｽｲﾐﾝｸﾞﾁｬﾚﾝｼﾞｶｯﾌﾟ2024	8月 7日～9日	TAC	東　京
③	全国 JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～25日	横浜国際プール	神奈川
④	日本学生選手権水泳競技大会(ﾏｰﾒｲﾄﾞｶｯﾌﾟ)	9月 1日	TAC	東　京
⑤	国民スポーツ大会	9月 7日	SAGA アクア	佐　賀
⑥	ユースソロ・デュエット大会	1月18日	TAC	東　京
⑦	ｱｰﾃｨｽﾃｨｯｸｽｲﾐﾝｸﾞﾅｼｮﾅﾙﾄﾗｲｱﾙ2025	1月19日	TAC	東　京

（5）【オープンウォータースイミング競技】

① オーシャンズカップ	6月15・16日	館山市北条海岸	千　葉
② 国民スポーツ大会	9月11日	伊万里市イマリンビーチ	佐　賀
③ 日本選手権水泳競技大会	9月27日～29日	館山市北条海岸	千　葉
④ 日本学生選手権水泳競技大会	10月13･14日	館山市北条海岸	千　葉

２．国際競技会の開催事業

2023年度は、世界選手権大会（福岡）を AQUA ならびに大会組織委員会との強固な連携のもと、各競技とも成功に導くことができた。また、ジャパンオープン2023においては、海外選手の参加拡大を図ることができた。2024年度は、引き続きジャパンオープンへのさらなる海外選手受け入れを進めていく。今後は、世界大会等の誘致にも積極的に取り組んでいきたい。

３．競技委員会事業

（１）競技会事業

本連盟主催大会では、開催地の加盟団体や本連盟学生委員会、JSPO、（公財）全国高等学校体育連盟、（公財）日本中学校体育連盟などのスポーツ団体と連絡調整を密に行い、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。国民の期待に応えられるよう、高いレベルの大会となるように全力を尽くす。

（２）学生競技会事業

新たに OWS 競技を加えてオリンピック種目が揃った日本学生選手権（インカレ）は、節目の第100回大会を、約2週間にわたりすべての競技を東京アクアティクスセンター（TAC）にて開催する（OWS は、館山・北条海岸開催）。全国国公立大学選手権は、新設される滋賀県・草津市立プールにて国民スポーツ大会のリハーサル大会も兼ねて開催する。

また、加盟6支部においては、全国大会の予選会をはじめ支部主催の競技会を通じて、学生水泳の強化と普及に寄与し、健全な競技環境を整えるため「学生向けアンチ・ドーピング講習会」・「スポーツ・インテグリティの啓発」を継続する。

なお、学生委員会（会議）を毎月開催し、各支部間の相互連絡と融和を図りつつ、厳正なる学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。学生競技役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行う。

Ⅳ　競技運営推進事業（競技推進支援事業）

１．科学事業

本連盟関係諸委員会、加盟団体、関連組織との連携を強化し、国内外の競技会における競技力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手・コーチへのレース分析データの提供効率を上げ、映像データ（水上）の提供を日本選手権などで継続実施する。飛込、水球、AS、OWS の日本選手権など、全国大会での科学サポートを継続・発展させる。合宿における科学サポートでは、選手が主体的に競技力向上を科学的な見地から考察できる取り組みを行う。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会の準備・開催に協力する。広報委員会と連携し、事業

報告、科学サポート報告、学会などでの最新科学知見を、月刊水泳を通じて広く周知する。

（1）競泳の科学サポート

① 競泳の主要競技会（日本選手権、国民スポーツ大会などの全国大会）におけるレース撮影・分析や競泳委員会と連携した科学サポートの実施

② データ利用の促進（競泳委員会との連携によるデータベース構築、情報システム委員会との連携によるデータの適切管理化）

（2）飛込、水球、AS、OWS の科学サポート

各競技会（日本選手権などの全国大会）における撮影・分析、各委員会と連携した科学サポートの実施

（3）主要合宿での科学サポート推進

① 競泳エリート小学生研修合宿、ナショナル合宿、ジュニアナショナル合宿などでのサポート

② 飛込、水球、AS、OWS の主要合宿科学サポート

（4）教育・啓発・普及活動

① 日本水泳・水中運動学会年次大会（10月初旬、鳴門教育大学）の準備・実施への協力

②「水泳の日2024・北海道」における水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

２．医事事業

2024年度は、本連盟関係諸委員会、ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）、JOC、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）らと連携しながら、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動、競技会における救護活動ならびに水泳競技をより安全に普及するための調査・研究・広報活動を行う。

2023年7月に改訂された World Aquatics Competition Regulations において、脳振盪の疑いのある選手は直ちに競技もしくは練習から離脱し状態を評価する必要があることが明記された。これを受けて脳震盪ワーキンググループを立ち上げ、競技者だけではなく、指導者、審判、保護者などすべての関係者に教育・情報提供活動を実施する。

アスリート委員会、競技力向上コーチ委員会と連携し Women’s Health Project for Japanese Swimmers （WHP）を立ち上げ、女性アスリートの健康問題の解決に寄与することを目指す。

全国各地に潜在する有望選手に対しても適切な医学的サポートが行われるように、各地域におけるメディカルサポート活動を行う。そのため各地域ブロックにおいてメディカルスタッフのミーティングを行い、各都道府県加盟団体の医事委員会との連携をとれるよう対策を考案していく。教育、啓発活動として日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通じて、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会などへの講師派遣を行い、水泳医学に関する知識や経験を広く水泳指導者に伝えていく。

（1） 主要競技大会における医事運営

① 救護担当ドクターの派遣

② 救護用医薬品の管理

（2） 競技選手へのメディカルサポート活動

① 選手のコンディショニングおよび外傷・障害・疾病の管理

② アンチ・ドーピング活動

③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防対策実践

④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
⑥ 国際大会・合宿などへの帯同ドクター・トレーナー派遣

（３） 教育・啓発・研究活動

① World Aquatic Sports Medical Committiee との協力
② 日本水泳ドクター会議・日本水泳トレーナー会議との連携・協力
③ 障害予防のための研究、予防対策の開発・普及
④ 指導者養成講習会への講師派遣
⑤ 脳震盪ワーキンググループによる教育・情報提供活動
⑥ WHP による女性アスリート支援

３．アンチ・ドーピング事業

（１）連盟主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なアンチ・ドーピング活動の一環として、JADA と連携し、連盟主催大会かつ JADA が指定する「国内最高レベルの競技大会」においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。また、該当競技会の監督者会議ではアンチ・ドーピングに関する啓発をする。NF 代表役員（主に医事委員会もしくはアンチ・ドーピング委員会の委員）を該当競技会のドーピング検査会場に配置し、ドーピング検査が円滑に実施できるように手配するとともに、検査が適正に行われていることを選手目線でも確認する。

（２）その他の事業

① 競技会における配布資料やホームページ掲載資料などの作成、禁止物質・禁止方法の治療使用特例（TUE）申請書類の事前審査
② 強化合宿・研修会（オンライン含む）などでのアンチ・ドーピング講習会講師派遣
③ 本連盟主催のアンチ・ドーピング講習を行う講師資格である JADA 承認クリーンスポーツ Educator の育成・管理
④ 競技会会場での医薬品使用相談スポーツファーマシスト派遣
⑤ JADA 会議・研修会（オンライン含む）への NF 代表役員の参加
⑥ 競技会におけるアンチ・ドーピング啓発活動（アウトリーチプログラムの実施）
⑦ ホームページ上での医薬品使用に関する「薬の相談窓口」対応

４．国際関係事業

（１）国際関係の情報収集および共有

国際関係団体への渉外や国際競技会の情報収集・調査・発信を行う。

（２）国際競技会の招致

国際競技会の情報収集および調査を行い招致を検討する。

（３）外国役員の接遇

国際会議や主要国際競技会等の諸行事における外国役員の接遇、通訳を行う。

Ⅴ　競技運営推進事業（競技条件整備事業）

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

１．競技者登録事業

競技者登録管理システム（WebSWMSYS）における競技者の重複登録の解消、機能の改善を推進し、システムの安定稼働を図る。

２．競技規則制定事業

2023年4月1日に改訂施行された「競泳競技規則」「競技役員の手引き」ならびに各種別の国内競技規則について的確な情報発信を行い、全国統一の理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進する。

３．競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・中期計画2017－2024」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的に、選手の力を最大限に引き出す高いレベルの競技役員・審判員を養成する。国際基準の眼を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指す。

競技役員資格取得者18,000人を目標に、本連盟の方針や改定された競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。そのために競技役員研修会を充実させ、リモート形式も含めてブロック研修会、各加盟団体主催研修会ともに着実に実施する。全国大会開催予定の加盟団体が実施するリハーサル大会などに本連盟の競技委員を派遣して、競技会指導を行う。

また、日本選手権などの本連盟主催の競技会に各加盟団体から競技委員長や中核となる審判員に競技役員として参加いただき、最新の競技運営の習得を目的とした実技研修を実施する。全国競技委員長会議を、リモート会議形式で4月に実施する。

４．競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行う。記録管理報告サイトで、記録の報告・管理・保全の効率化・省力化が図られ、各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告も、加盟団体の協力により定着してきた。引き続き、記録管理報告サイトの安定稼働を目指し、記録の3日以内報告を定着させる。また、「超速」のバージョンアップを行い、競技会での活用を促進する。

５．施設用具公認推薦事業

「プール公認規則」にのっとり、新規公認および再公認のプール公認事業を行う。

また、「水泳及び水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」にのっとり、水泳競技に関わる用器具類などの公認・推薦事業を行う。

Ⅵ　普及事業

普及事業は、強化事業とともに本連盟の二本柱を形成する重要な位置づけにある。2024年度も、指導者養成事業、生涯スポーツ・環境事業、OWS 普及事業、日本泳法保存事業、機関誌発行事業、ホームページや SNS などを活用した広報事業に取り組む。「水泳の日」については、水泳愛好者や水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を継続、推進する。

１．指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上に当たる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、JSPO と連携協力し指導者養成事業を実施する。また、JSPO が実施している指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システム「指導者マイページ」の活用のほか、オンライン・リモートを活用した受講システムの推進を行い、指導者資格取得者の拡大に向け、受講者の利便性や効果的な情報配信方法についての向上を図る。

（１）地域指導者養成事業

① 指導者養成事業

(a) JSPO 公認水泳コーチ１・2（以下コーチ１・2）の新規養成
(b) 加盟団体を通じた本連盟公認基礎水泳指導員（以下基礎水泳指導員）の新規養成
(c) 競技実績を有するアスリート・指導者の基礎水泳指導員資格免除認定審議
(d) 免除適応校（大学）の養成事業に対する助言・指導
(e) 免除適応校（専門学校）に対する助言・専門科目の検定

② 指導者研修事業

(a) コーチ１・2 ならびに基礎水泳指導員の更新研修に対する督励・助言・指導
(b) 指導者に対するコンプライアンス教育の展開
(c) 学校水泳指導者に対する研修事業

③ 指導者登録事業

(a) コーチ１・2 の新規・更新登録
(b) 基礎水泳指導員の新規・更新登録・管理のシステム化

④ 加盟団体との連携

(a) 全国地域指導者（普及）委員長会議を通じた指導者養成事業の共通理解と厳格・公正・均質化
(b) 地区別委員長会議などへの派遣を通じた、地域における指導者養成事業の課題の把握と督励

⑤ 水泳の普及に関する事業

(a) 指導者養成事業の広報
(b) 水泳の安全に関する研究と普及

（２）競技力向上コーチ養成事業

① 水泳競技コーチ資格審査の実施
② 水泳競技コーチ資格の新規登録・再登録・登録更新
③ 水泳競技コーチ更新研修会の実施
④ 水泳競技コーチ新規養成講習会の実施
⑤ 水泳競技コーチ資格の普及促進
⑥ 水泳競技コーチへの成長支援（世界レベルのコーチの養成）
⑦ 競技力向上指導指針の作成・冊子発行
⑧ 水泳コーチ教本の改訂準備（2025年度改訂予定）
⑨ 水泳競技コーチ養成指導者 養成指針作成・冊子発行準備
⑩ 水泳競技コーチ資格の細分化（認定資格）検討部会の設置および運営
⑪ 水泳競技コーチへの伝達および問合せ対応の効率化の向上

（３）水泳教師養成事業

① 水泳教師新規養成事業の推進 （(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
(a) 適応コース講習検定会の実施 （本連盟担当）
(b) 適応コース大学検定会の実施 （本連盟担当）
(c) 適応コース認定校の新規開拓 （本連盟担当）
② 新規養成コース講習検定会の実施 （(一社）日本スイミングクラブ協会担当）
③ スキルアップセミナーの開催（東京都、愛知県、神奈川県） （本連盟担当）
④ 水泳教師資格の新規･更新登録事業 （(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
⑤ 水泳教師資格更新研修会事業 （(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
⑥ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）

２．生涯スポーツ・環境事業

マスターズ水泳事業は、(一社）日本マスターズ水泳協会およびJSPOと連携し、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し､開催地の大会企画･運営を支援する。

泳力検定事業は、運用開始した「泳力検定システム」を活用し、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

「北海道ブロックの北海道江別市にある北海道立野幌総合運動公園プール（9月22日）にて開催する。実行委員会を中心として、(一社）日本スイミングクラブ協会、(一社）日本マスターズ水泳協会、(一社）日本パラ水泳連盟、(一財）北海道水泳連盟および各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

（１）日本スポーツマスターズ事業

①「日本スポーツマスターズ2024水泳競技長崎大会」の開催
（9月7日～8日：長崎県長崎市 長崎市民総合プール）
②（一社）日本マスターズ水泳協会およびJSPOと連携した大会のさらなる発展
③ 25歳～29歳区分、75歳～79歳区分を新設し、社会人となった若手選手が生涯アスリートとしてマスターズ水泳へ取り組むきっかけとするとともに、元気や生きがいを感じながら、生涯スポーツとしての水泳を継続し、ひいては健康増進を図ることを支援する目的で拡充を図る。

（２）「水泳の日」開催事業

①「水泳の日2024・北海道」の開催（9月22日：北海道立野幌総合運動公園プール）

② 加盟団体が継続して主催開催する「水泳の日」への支援および連携

③ イベントに関わる会議の企画・立案・運営のパッケージ化

④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整

⑤ （一社）日本記念日協会より記念日として認定された「水泳の日」の周知

（３）泳力検定事業

① 泳力検定者および合格者の増加促進

② ニチレイチャレンジ特別泳力検定会（15会場以上）などの企画・立案・運営

③ 泳力検定優秀団体の表彰

④ 泳力検定未実施団体（スイミングスクールなど）へのアプローチ強化

⑤ 「泳力検定システム」の運用促進および普及啓発

（４）優秀団体表彰

① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

（５）「安全な水泳教育」の普及

① アスリート委員会と連携した、「命を守るスポーツ」としての水泳教育、環境教育の整備

（６）スポーツ環境保全活動の啓発、推進、情報発信

① ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した事業運営の推進

② 地域・社会の環境活動に取り組むとともに、各団体との環境活動の連携、支援・協力

③ 環境活動の情報の発信

３．オープンウォータースイミング普及事業

（１）OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催

（２）OWS 公認審判員養成（審判講習会の開催）

（３）公認 OWS コーチの養成（更新講習会の開催）

（４）認定 OWS 大会運営仕様の標準化と普及

（５）認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

４．日本泳法保存事業

四方を海に囲まれ川や湖も多いわが国では、古くから水と生き、一方で水の脅威にもさらされてきた。そのような環境が日本独自の泳法を生み出し、それらは游泳術、水術などと呼ばれ、命を守る実用の泳ぎ「日本泳法」として今日でも全国各地で継承されている。現存する13流派の游泳術や水術の保存と普及を図るため、日本泳法大会ならびに日本泳法研究会を柱として下記の事業を実施する。

日本泳法大会では、主に泳法競技と資格審査を行う。流派を問わない公平・公正な演技評価が、選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上につながることから、1回以上の審判研修会を実施する。

資格審査は、上位資格取得を目指し研鑽を継続することが、指導者層の育成と、自己研鑽として日本泳法継続を後押しすることからこれを推進する。入門者が最初に受ける游士資格審査は、8月の日本泳法大会以外に、関東・関西で各1回開催する。

有資格者の上位資格チャレンジを支援し、正しい泳法の保存を目的とする日本泳法研鑽会を継続実施する。

2022年度に制作した日本泳法プロモーションビデオを様々な機会に活用し、日本独自の水泳文化である日本泳法を広く発信すべく、広報活動を強化する。

新たな視点で、日本泳法の普及拡大に資する新規事業の開発に取り組む。

国民皆泳の精神を受け継ぐ「水泳の日」事業には、各流派団体の協力を得て積極的に参加する。

（1）第69回日本泳法大会	8月24・25日	ひろしんビッグウェーブ（総合屋内プール）
（2）審判研修会（予定）	8月24日	ひろしんビッグウェーブ（総合屋内プール）
（3）游士資格審査会		
千葉会場	10月13日	千葉県国際総合水泳場
香川会場	3月23日	香川県立総合水泳プール
（4）日本泳法研鑽会		
第20回［千葉会場］	10月13日	千葉県国際総合水泳場
第21回［香川会場］	3月23日	香川県立総合水泳プール
（5）第72回日本泳法研究会		
課題「水任流」	3月22・23日	香川県立総合水泳プール・サンポート高松

5．機関誌発行事業

2023年度においては国際大会、国内大会共に多くのリポートを掲載。2024年度はパリオリンピックに向けた機運を高めるためにも多くのリポートの掲載できるよう尽力する。大会報告（総括）については大会リポートではなく、競技運営にフォーカスを当てたものを依頼し、歴史書としての役割を一層強くする。また、パリオリンピックの終了後は、2028年に開催されるロサンゼルスオリンピックを見据えた強化策などを含めた次世代に向けた情報発信を心がけ、普及事業、各種式典などを含めた本連盟の諸事業の情報発信も同時に行う。

6．広報事業

（1）公式ホームページ（HP）

① HP 管理体制の再確認と精査を進めるとともに、各競技の最新情報や大会リポートを迅速に掲載する。

② SNS（Facebook、Instagram、X（旧 Twitter））での情報発信を継続し、大会のみならず、選手紹介、本連盟の事業など広く活動を広報する。

③ HP 更新内容がスムーズに通知されるシステムの構築を進める。

④ 過去に発行した機関誌（月刊水泳）の PDF 版を順次公開する

⑤ 機関誌「月刊水泳」の記事を web に最適化し、掲載を進めていく。

（2）報道対応

各競技（各専門委員会）の大会時における報道対応の人員確保とプレスに対する正確な方法発信を心がける。また、報道対応マニュアルの作成を進める。

（3）記念誌発行事業

2024年の本連盟創立100周年に向けて、10年ごとに発行している「周年記念誌（100周年記念誌）」の作成を進める。そのために各委員会から周年記念誌委員会のメンバーを選出し、スケジュール管理等含めた役割を担っていただく。

また、あわせて記念式典等を盛り込んだ歴史書である「日本水泳連盟100年史」のコンテンツの精査を進め、関係各所への寄稿依頼を進める。

7．アスリート委員会事業

（1）現役アスリートの意見集約

① 現役アスリートをオブザーバーとして迎え、現場の意見を吸い上げ、本連盟へ提案や提言を行う。

（2）現役アスリートへのサポートの検討

① 女子選手の月経に関する啓発と情報提供を行う。

② アスリートのキャリア・トランジションに関する啓発を行うとともに、有識者等の協力のもと情報提供の機会を設ける。

（3）ジュニアアスリートへの動機づけ

① ジュニアアスリートおよび保護者に向けた各種情報の発信および交流

② 各地のジュニア合宿、講演会などへのオリンピアンの派遣

（4）水泳の普及への貢献

① 水泳の日など、本連盟の普及事業への貢献

② 公式 SNS を活用した水泳普及に資する情報発信

③ 国内の主要大会において一般参加型イベントを企画・実行することにより、水泳ファンの拡充を図る。

（5）オリンピアン OBOG 会のネットワーク強化

① 本連盟事業への協力呼びかけ

② オリンピアン OBOG 総会・懇親会の開催

8．国際貢献事業

（1）要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討

（2）指導力と語学力を兼備した水泳指導者の海外派遣制度の検討

Ⅶ　組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

１．総務関係事業

「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」に基づくコンプライアンス施策を継続して検討、実施する。本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務を遂行する。

２．マーケティング事業

2024年パリオリンピックに向けて、オフィシャルスポンサー、パートナー、サプライヤーなどの各企業とのさらなる連携を図るとともに、新規協賛企業の獲得に努める。SDGs など時代の流れに対応するとともに、各種施策を講じて水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを図り、水泳ファミリーを拡大して、スケールメリットを生かしたマーケティング戦略を構築する。

３．特別委員会事業

（１）	財務委員会 免税募金事業の推進	財務委員長	堀　正美
（２）	競技者資格審査委員会 競技者資格の審査	競技者資格審査委員長	金子　日出澄
（３）	選手選考委員会 国際競技会派遣日本代表選手団の選考	選手選考委員長	鈴木　大地
（４）	指導者養成委員会 指導者養成制度の推進と資格認定審査	指導者養成委員長	山根　一寿
（５）	アンチ・ドーピング委員会 アンチ・ドーピング活動の計画と推進	アンチ・ドーピング委員長	塚越　祐太
（６）	倫理委員会 倫理、社会規範意識の啓発と指導	倫理委員長	金子　日出澄
（７）	危機管理委員会 緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導	危機管理委員長	鈴木　大地

Ⅷ　組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・中期計画2017 - 2024」に基づいて、事業内容の精査・充実を推進する。各事業の遂行は、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、JSPO、JOC などの関連団体とも連携を図り実施する。組織運営に際しては、ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底により、組織力の強化を図る。財政面においては、全体の収支バランスを考慮し、有効適切な事業の執行、予算管理の徹底を図る。